

大玉でおいしいナシの新品種「恵水」育成と栽培管理法

生物工学研究所・園芸研究所

1 背景と目的

本県のナシは、日本ナシの農業産出額で全国2位に位置する（平成23年生産農業所得統計）重要な園芸品目です。しかし、「幸水」および「豊水」の2品種で9割以上を占め、単価が低迷していることから、多様化する消費者ニーズに対応できる新品種の導入が生産者・消費者側双方から求められています。

そこで、果実が大きく、糖度が高いという特徴を持つ「恵水」を育成するとともに、この品種の特性を生かした栽培管理方法を確立しました（写真1）。



写真1 新品種「恵水」

2 研究成果の概要

○「恵水」の特徴（表1）

- ・収穫時期は9月上旬～下旬の中生品種です。
- ・果重は600g前後の大果で豊産性です。
- ・糖度は13%以上と高く、酸味が少ない品種です。
- ・果実品質を損ねる「みつ症」の発生は「豊水」よりも少なく、品質が優れます。
- ・果実は冷蔵貯蔵（2℃）すると約3か月の長期保存が可能です。

表1 「恵水」の果実特性（H21～H24の平均）

品種名	一果重 g	糖度 Brix%
恵水	585	13.6
豊水	502	12.7
あきづき	532	12.5

○「恵水」の栽培方法

- ・短果枝（実のなる枝）の確保が容易で、毎年安定した収量が見込めるなど、栽培しやすい品種です。
- ・大玉の果実を生産するためには着果数を制限します。目安は2～3果そう（結実部位）に1果です。
- ・収穫を始める時期は、満開後135～140日経過した頃です。果実表面の色を見ながら、適期を判断します。



写真2 流通関係者による評価の様子

3 実用化に向けた対応

現地試験を3年以上行い、生産者から収量・品質とも良い評価をいただきました。

大田市場（東京）で市場性調査を行い、卸・仲卸業者など流通のプロからも良好な評価をいただきました（写真2）。

平成24年度に都内の高級果実専門店における試験販売にも取り組み、大玉で食味の良さが評価され、豊水に比べ高値で販売できました。平成25年度も継続して試験販売が行われる予定です。

平成25年度からは本格的な生産のための苗木の増殖が開始され、平成28年頃には本格的な市場流通が始まる見込みとなっています。

「恵水」に関する評価の声

農家から：作りやすく大玉生産が可能で、味や収量の点でも問題なく、良い品種です。

流通関係者から：酸味が少なく、最近の若い消費者の人たちに受ける味です。